



週刊

新宿新聞

THE SHINJUKU SHINBUN

購読料6ヵ月4,000円、毎月5の日発行、創刊63周年 電話3369-6195 FAX3369-0759 (発行所) 印刷3種刷り製本

主なニュース

- ②面 池袋・シネコン2館新設で新宿に対抗
- ③面 渋谷・明治通り沿いに商業出店相次ぐ
- ④面 東商新宿・中小企業再生で経済成長を
- ⑤面 地域安全に取り組む新宿の警備業界
- ⑥面 桜美林大学・百人町キャンパス起工

再開発に向け動きをみせる新宿駅西口

新宿西口ロータリー再整備案は今夏に

新宿駅西口では小田急電鉄、ヨドバシの2社が再開発を計画している。小田急電鉄はスバルビルのテナントの立ち退き交渉が長引き、ヨドバシは20年五輪までにめざしていた完成時期を「未定」へとトーンダウンさせるなど、いまだ火が付かない新宿西口開発。新宿区と都は西口広場、バス・タクシー乗り場の再編整備案を今夏に出す方針で、これを機に「西口開発」も点火へと動くのが注目される。一方で、西口では築50年以上の古いビルが目立ち、建物の老朽化に伴い明治安田生命ホールがこの5月に閉鎖、隣接する永和ビルが今年3月から解体工事に着手するなど、今後、西口地価一等地には開発計画の見えない空地も生まれてきそうだ。



消えゆく都心の劇場・ホール

明治安田生命ホール 56年の歴史に幕

新宿駅西口の多目的ビル(9階建)「新宿明治安田生命ホール」が、今年5月末で閉鎖する。明治安田生命ホールは、42階に上る。1961年に明治安田生命ホール(04年に明治

人が集うホールとして、安全性を最優先し閉鎖を決めた「明治安田生命ホール」(明治50年)は、56年の歴史に幕を閉じ、老朽化が目立つことから今年3月から10月にかけて解体工事を進めている。単独建てのホールとして、明治安田生命ホールに共同開発を呼び掛けるのか、それとも土地売却に踏み切るのかは「全く決まっていない」とい

明治安田生命ホールは、現状は96年に改修工事を行ったが、竣工から58年が経過し建物の老朽化が目立つ。「不特定多数の」

小田急 スバルビル立ち退きに遅れ

20年までの完成は困難 ヨドバシ

新宿区と都は2040年、今年夏をメドに、年代の新宿の拠点づくり、都は駅周辺のまちづくりに向けた「新宿の新たな街づくり案」を4月に策定。新宿駅東西のロータリー・広場は歩行者優先の歩きやすい広場へと再整備され、西口のバス・タクシー乗り場も変わ



西口広場整備の具体的な方向性が今夏示される中、注目される



新宿駅東口も広場整備が図られる

「特養待機者」の現状と課題

在平成30年5月に開設を予定。更に超高齢社会の進行とともに増加が見込まれる入所希望者に対応するため、老朽化した高齢者ケアセンターを特別養護老人ホームを中心とした新たな高齢者施設として整備します。今後も申し込まれつつあるままながら国有地等の活用や区有施設の再整備を検討してまいります。

現在、本区の特養待機者数は23区でもトップレベルにあるが、特別養護老人ホームを中心とした新たな高齢者施設として整備します。今後も申し込まれつつあるままながら国有地等の活用や区有施設の再整備を検討してまいります。

一方、利用枠に空きが出た施設からの入所の再掛けに併発される待機者も毎年多く施設と待機者のマッチングが課題です。今後も高齢化が進む中、在宅介護を支援する地域密着型サービスを進めるとともに平成31年度に41床の特別養護老人ホームを開設するなど、在宅生活が困難な高齢者を支える取り組みを進めていきます。

住み続けられるまちへ
豊島区の特養待機者数は平成29年3月31日現在7百9名と増えています。平成27年度に区有地の活用で2ヵ所の特養を新設し入所の必要性の高い方の需要

地域福祉サービス推進
新設 吉住 健一
新宿区の特養待機者数は千名を超えていますが、新設施設の開設や住宅サービス等の充実等により、現在6百

住み続けられるまちへ
豊島区の特養待機者数は平成29年3月31日現在7百9名と増えています。平成27年度に区有地の活用で2ヵ所の特養を新設し入所の必要性の高い方の需要